

大島主任研究員が JICA 短期専門家として エルサルバドル国にて橋梁維持管理研修を行いました

2018 年 1 月 30 日 CAESAR

【概要】

昨年、12 月 3 日から 10 日までの 8 日間、大島義信主任研究員が JICA 短期専門家としてエルサルバドル国に派遣され、現地公共事業省の職員を対象とした橋梁維持管理研修の指導を行いました。この研修は、長崎大学が主体となって実施している JICA 技術プロジェクト「全世界 橋梁維持管理研修プロジェクト」の一環として行われたもので、現地における橋梁の維持管理体制の確認や、維持管理のための損傷事例集の作成について研修を行うものです。

中米では、現在日本の ODA により 80 橋の橋梁が建設中であり、世界の中で最も多く ODA による橋梁の建設が行われている地域といえます。対象国としたエルサルバドルでも、現在エクストラドーズド橋の建設が行われているほか、これまでに数多くの橋梁が日本の ODA によって建設されています。日本が建設したこれらのストックを確実に機能させるためにも、適切な維持管理が重要といえます。この技術プロジェクトでは、現地職員の研修を通じて、確実かつ効果的な橋梁の維持管理の実現を目標としています。

エルサルバドルは、自然災害も多く、特にハリケーンによる河川流出、洪水による橋梁の倒壊、地震による被害、過酷な塩害環境など、日本の自然災害に対する与条件と類似する部分も多くあります。そのため、日本で蓄積された橋梁維持管理に関する技術や知識を有効に活用できる状況にあります。

また、エルサルバドルの公共事業省内にある試験所は、中米でもトップクラスの設備と人員を有していることから、エルサルバドルを起点として中米全土の橋梁維持管理に関する技術協力の展開も期待できます。CAESAR では、これまでの国内における橋梁維持管理の経験やノウハウを活かし、今後も世界規模の技術協力に貢献していきたいと考えています。



橋梁担当者との現地確認



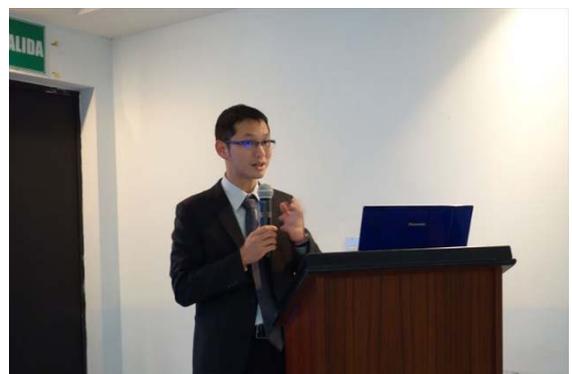
コンクリート桁の状態を調査



塩害により腐食損傷した鋼桁の様子



現地確認に同行したメンバー（公共事業省職員）



現地の状況を踏まえた技術指導



大島主研の講義に参加する公共事業省職員



大島主研の講義に参加する公共事業省職員



公共事業省の橋梁担当者